公益社団法人上越青年会議所

２０１５年度　理事長所信

理事長　佐藤　利彦

勇気ある決断と確かな実行
新たな半世紀への挑戦！

【はじめに】

日本における青年会議所運動は「新日本の再建」を御旗に東京にて発足して以来、瞬く間に全国に波及いたしました。全国各地の志を持った「青年」が英知と勇気と情熱をもって活動し続けた成果として、大いなる社会貢献を実現し、そして多くの人財を輩出してきました。我々のふるさと上越でも、１９６５年に高田と直江津の二つの青年会議所が合併し上越青年会議所が誕生、それから半世紀の時を経て昨年度が創立５０周年でありました。新幹線誘致運動や高田市と直江津市の合併推進運動をはじめ、政治や経済、教育などあらゆる分野においてその存在意義を確固たるものとして、現在まで「公益社団法人」として公に資する運動を展開しています。半世紀に亘り運動を展開することができたのは、先輩諸兄が時々において「勇気ある決断」をし「確かな実行力」を持って挑戦し続けた結果に他ならないと思います。半世紀の節目を経た公益社団法人上越青年会議所は本年度、先輩諸兄の高い志を胸に刻み「新たな半世紀への挑戦」の一歩を踏み出します。

そして、これからの半世紀を見据えた新たな挑戦をしていくためには、組織の永続的な発展が不可欠です。しかしながら現在は、会員数が減少の一途を辿っています。これは、４０歳で卒業をするという事もありますが、組織としての魅力が薄らいでいることも起因していると感じます。あらゆる面で多様化し、一つのベクトルに向かって行動することが困難とされる昨今、色々な社会問題に対し危機感を抱いて行動する情熱が薄らいではいないでしょうか。我々は先輩諸兄より受け継いできた精神をもって社会問題に対し果敢に挑戦することが重要で、それには市民の琴線に触れる活動が必要であり、その効果として青年会議所の魅力が増し会員拡大に繋がるものと考えます。さらに、青年会議所へ入会することで「得られる実り」を具現化し、説得力ある勧誘活動につなげることも重要です。「勇気ある決断」の第一歩である入会に対し組織として魅力あるツールを考案し会員数の増加に努め、さらに組織を活性化させたいと考えます。

また、昨年開催された高田開府４００年祭でも示された通り、私たちが住む上越は、古くからの伝統文化と「義」に代表される確かな精神性があります。北陸新幹線が開業する本年は、より豊かな地域資源を活かしたまちづくりを促進するとともに、子どもたちへ郷土の誇れる精神性を伝えていくことが必要です。私たちの理想とする「まち」へと進化し続けること、それはこの地に生まれ、この地で育つ子どもたちのためであるのです。単なる傍観者ではなく一人ひとりが当事者意識をもって、希望に満ちた未来を思い描くことができる地域に進化させる責任があるとも言えるでしょう。私たち一人ひとりがそのたしかな未来を描き行動し、明るい豊かな社会実現へと導きましょう。

【上越の未来地図】

私たちが住まう地域の「明るい豊かな社会」とは具体的にどのようなものでしょうか。２００２年に上越青年会議所で地域ビジョンを策定した中に「美しきふるさと、信頼あつき人々」との記述があります。またＪＣ宣言文の中には「個人の自立性と社会の公共性が生き生きと協和する確かな時代」と謳われています。それを実現させるためには、確固たる信念に基づいた地域住民の琴線に触れる力強い運動を展開する実行力が不可欠です。明るい豊かな社会という理想に向かって、私たちが真のリーダーシップを発揮し、多くの市民と共に行動を起こし、社会システムを変革させ「上越の未来地図」を描こうではありませんか。北陸新幹線が開業する本年、市民のシンボルとなり交流人口増加の起爆剤となる目に見えた明確な理想を提示し、明るい豊かな社会へと力強く運動展開を行う団体として挑戦します。

【北陸新幹線がもたらすもの】

本年春、北陸新幹線が開業し、ここ上越にも現在の脇野田地区に「上越妙高駅」が新設され高速交通網のインフラが整備されます。インフラの整備は地域にとって大きな変革期となります。東京や金沢への移動時間が短縮されることは喜ばしいことではありますが、マイナスの面も混在するのが現実です。いわゆるストロー現象や既存在来線の存続が懸念されます。我々創始の熱き想いであった北陸新幹線を地域に通す悲願が半世紀の時を経て叶う今年、何としてでも上越地域住民が夢と希望が叶う交通網とさせなければなりません。北陸新幹線開業に際し他地域からの観光客を地域住民が一体となって歓迎する事業を展開すると同時に、市民の足である既存在来線を魅力あるものとして有効活用できる仕掛けを講じ存続させなければなりません。誘致活動に尽力した創始の情熱を他地域にも連携出来る同士を持つ我々がしっかりとした「形」にすることで、北陸新幹線開業に伴うメリットを増大させます。

【教育は国家百年の大計】

はるか太古の壁画に「近頃の若い者は」という記述があると聞きます。いつの時代でも年代による葛藤はあります。しかし我々は次世代に嘆くより共に育む精神で教育に携わることが重要です。教育とは「教え育てる」ものであり、次世代を育むことは我々青年世代の責務です。日本には悠久の歴史による利他の精神性が宿り、ここ上越でも「義」に代表される心が受け継がれています。東京オリンピック、東京パラリンピックの誘致に際し世界に示すことができた「おもてなし」の精神、東日本大震災の際に世界から賞賛された「助け合い」の精神、敵に塩を送るという「義の精神」を未来永劫つなげでいく為にも、我々はいかなる困難があろうと行動しなければなりません。一つの大目的に向かって努力し助け合う、公教育とは違った今まで培ってきた青年会議所だからこそ出来る発想を持って子どもたちの為の活動をする。その結果はすぐには出ずとも必ずや百年の大計となることを信じて、ムーブメントを起こします。

【青年が目指すべきリーダー像】

青年会議所に入会し活動することは、多くのメリットがあります。「明るい豊な社会の構築」という大目的に向かって会員一丸となって行動する。それにより多くの知識と見識が身に付き、会員相互の交流が図られ、かけがえのない仲間をつくることができます。多くの先輩方がそれを会社や地域へ持ち帰り実践され、リーダーとして活躍されています。そうした青年会議所ならではのノウハウと培ってきたネ

ットワークを活用することで「リーダーを育む研修」をより充実させ、地域社会に貢献するリーダーとなりえる人財を育成します。また、新入会員獲得の切り札として「リーダー育成塾」をプログラム化し開講することで青年会議所入会へのメリットを実感してもらい、大々的に広めることで上越青年会議所の存在価値を高め、勇気ある決断ができる確かな実行力を持った人財を一人でも多く育みます。

【新たな発想を活かす】

公益社団法人上越青年会議所は、新入会員が配属されるオリエンテーション委員会を伝統的に設置しています。年齢のばらつきはあれ、同じ一年生として活動することでかけがえのない仲間となり、皆が離れ離れになる次年度以降も、入会年度ごとに「同窓会」が開催されています。そして新入会員だからこそ有している新たな発想は組織の大きな力となります。不連続の連続といわれる青年会議所は、毎年違った組織で運営することで組織全体の停滞を防いでおり、新入会員の新たな発想は組織全体に活力をもたらしてくれるでしょう。委員会には柔軟で新しい発想を存分に発揮し、組織のすべての活動・運動への伝播も見据えた事業構築を期待します。また、準会員の期間を終え正会員になれば、他のメンバー同様、同じ年会費を納入し同じ総会議決権を有します。正会員となれば、組織の事業はもとより、各種大会・事業に積極的に参加することで、組織に必要な知識を素早く習得し、一年目から「即戦力」となって上越青年会議所の一員として自覚し行動をする。その一年間の活動を通じて、会社や地域で頼りにされる「青年」としての一歩を踏み出してもらいます。

【組織は人によって成り立つ】

人は一人では生きていけません。家庭、町内、会社など色々な組織に属し、多くの他者とともに行動することで、社会が成り立っています。属する組織を活性化させるために必要なものは、他者を信頼すること、他者から信頼されることだと思います。しかし、他者との信頼関係はすぐにできるものではありません。自らが率先して行動し他者と議論を交わし、他者の協力を得ながら事柄を達成する。信頼はこのように生まれてくるものです。そして、この活動は青年会議所という組織が最も得意とするものです。時には議論を交わし、時には笑い合いながら、事業を共に構築する。そのうえで他者との信頼関係が築かれます。また、会員一同が会する例会という場を用いて、その信頼関係をもっと広く波及することができないかと考えます。そして会員間で培われた信頼を生み出す力を、家庭、町内、会社など他のコミュニティにおいて発揮し、組織に属する自らの存在価値をさらに高めることにつなげます。さらには活動を支える身近な方々のコミュニティが増大することで、より社会からの負託と信頼を得る組織へと昇華させます。

【魅力ある組織を下支えする】

我々は１００余名もの英知と勇気と情熱をもった若者の結集です。その個々に持つ能力をいかんなく発揮させるためには、的確な組織運営が必要です。諸会議設営、各種大会参加の調整、ホームページを活用した情報の発信など一見地味に見える活動ですが、健全な組織を継続するためには最も重要なセクションとなります。また、近未来の青年会議所を背負う多くの会員がこの経験を通し、多くの「気づき」を得てステップアップしてきました。本年、事務局ではなく「総務委員会」としてその活動を展開します。与えられた責務を遂行するだけではなく、どうしたらより良い運営ができるかなどメンバーで議論

をし、発展させる。そうして自己の成長が一番できる委員会となることで組織の下支えをより強固なものとします。

【「公」に資する財務と「負託」を得るために】

公益社団法人上越青年会議所は、従来以上に公に資する運動と社会からの負託と信頼を得るという目的を掲げて「公益社団法人格」を取得し、３年が経過しました。現在の財政を維持すれば、運営において充分に継続できる組織となりました。明るい豊かな社会の構築を目的にしている団体として公益法人格の取得は確かな選択であったと確信しています。しかしながら、事業を展開するためには予算は必要不可欠であり、我々の収入源の殆どが会員の会費であり、今後も広域かつ重厚な活動を展開するためには、以前より導入している「賛助会員制度」の拡充を図る必要があります。また、賛助会員の皆様との連絡調整を密にして、より応援したくなる事業展開はもちろんですが、賛助会員としてのメリットを高め、強固な信頼関係を築きます。さらには公に資する財務と社会からの負託を得られるシステムを構築します。

【結びに】

公益社団法人上越青年会議所は、半世紀という節目を経て、新たな一歩を踏み出します。先輩諸兄が英知と勇気と情熱を持って築き上げた「道」の続きは、我々が創っていかなければなりません。青年会議所に入会をした動機は皆さまざまですが、貴重な時間とお金を使ってＪＣ運動を行うという、高尚な選択をした意識は皆同じです。一度選択したからには、創始の志を胸に、変革の能動者として挑戦し続ける責務があります。「道」を創造し、そこを歩むことも挑戦です。これからの半世紀に向けて、まだ道と言うには及ばない「道なき道」を切り拓き歩んでいくためには、『勇気ある決断と確かな実行力』が必要です。どんなに素晴らしいアイディアも、想いも、信念も、それを具現化し実行に移さなければ意味がありません。我々が青年としての力を発揮すれば、夢や理想は必ずや実現します。しかし、新たな一歩には不安がつきもので、その不安を払拭するため議論に議論を重ね、最良の方法を模索しお互いを高め合う事で自信となり、道を進むことが出来るのです。時には臆病になることもあるでしょう。しかし最善の成果を得るためには勇気ある決断を最後にしなければならないのです。

自信を持ってください。
その決断は必ず我々を成長させてくれます。

誇りを持ってください。
その実行は必ず上越を変えていきます。

このような決断と実行のうえに創られる「道」を歩むのは、私たち一人ひとりなのです。胸を張り、共に歩んで行こうではありませんか。